

声明

中国での流血の武力弾圧に抗議する

1989年 6月 4日、中国政府指導部は言論の自由や民主的権利を求めて結集した学生、知識人、市民の座り込み、デモ行進を中心とする非暴力の行動に対し「反革命の暴乱」と敵視し、戦車、その他重装備の戒厳部隊を突入させ、数千人を超えるといわれる死傷者をだすという恐るべき流血の武力弾圧を強行した。そして現時点でも、事態は進行中で学生、知識人、市民に対する逮捕、検挙、みせしめ的な死刑執行など非人道的な弾圧が続いている。今回の武力弾圧は重大な国際的人権問題であるとともに、科学の民主的、平和的发展のため活動する日本の科学者運動にとっても見過ごすことのできない重大問題である。

われわれは、中国政府に武力行使、弾圧を直ちに停止するとともに、国民の民主的権利を全面的に尊重、保障することを強く要求する。

自由と民主主義の発揚こそが、あらゆる社会体制にとって科学・技術を発展させるために不可欠であることは言うにまたない。現在の中国政府の行為はこれにまったく反する行為として抗議せざる得ないのである。

一方、日本の大学、研究所に滞在している多くの留学生、研修生などが中国政府の迫害を心配している。これらに対して、日本政府が人道的立場から中国政府に対して毅然とした態度をとり、在日中国人の安全と人権のために万全の措置をとることを要求する。

1989年6月25日

日 本 科 学 者 会 議